



KOBELCO

平成17年3月期 業績見通しについて

平成16年9月10日



KOBELCO
◆ KOBELCO STEEL, LTD.

報告事項

1. 2004年度業績見通しについて
2. 質疑応答



1. 2004年度業績見通し について



2004年度 業績見通し

(単位:億円)

	2003年度	2004年度見通し		
	実績	上期	下期	年度
売上高	12,191	6,900	7,300	14,200
営業利益	1,006	630	820	1,450
経常利益	507	370	530	900
特別損益	150	100	0	100
当期利益	220	110	290	400



セグメント別営業利益

(単位:億円)

	2003年度 実績	2004年度見通し		
		上期	下期	年度
鉄鋼関連事業	528	320	455	775
電力卸供給関連事業	85	100	100	200
アルミ・銅関連事業	149	80	90	170
機械関連事業	14	10	70	60
建設機械関連事業	80	50	30	80
不動産関連事業	37	15	15	30
電子材料その他	81	55	60	115
消去	29	20	0	20
合 計	1,006	630	820	1,450



セグメントの概況 【鉄鋼】

(単位:億円)

	2003年度	2004年度		差異
	実績	前回	今回	
売上高	5,344	5,700	6,100	400
営業利益	528	480	775	295

- ・自動車、造船、電機等主力分野の需要旺盛。
- ・高水準の生産を継続。効率向上による増産に努力。
- ・原料価格の上昇は計画比縮小。但し、先行き不透明。
- ・販売価格改善が進展。但し、十分なレベルでなく引続き交渉。



ECO WAY

KOBELCO

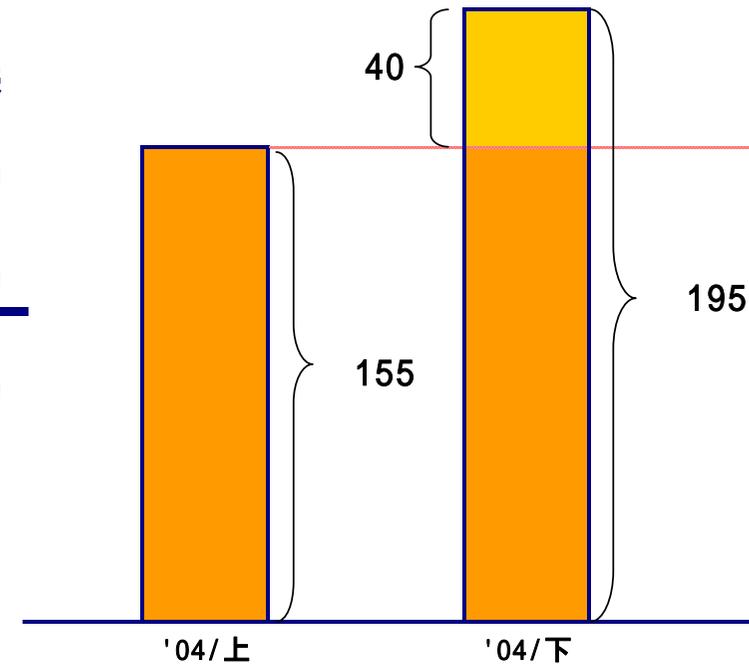
当社の生産・販売状況

	2003年度		2004年度見通し	
	上期	下期	上期	下期
全国粗鋼 (万t)	5,543	5,556	5,674	→
全国在庫水準 (万t)	553	449	7月末 513	→
国内自動車生産台数 (万台)	497	539	4-6月 254	→
< 当社 >				
粗鋼生産 (万t)	360	371	379	→
鋼材販売量 (万t)	311	318	326	→
(内 国内)	(237)	(239)	(242)	→
(内 輸出)	(74)	(79)	(84)	→
鋼材販売単価 (円/t)	47,200	47,300	53,700	→
鋼材輸出比率 (金額ベース)	24.3%	24.5%	27.9%	
(数量ベース)	23.7%	25.0%	25.8%	

原料価格の高騰について

(単位:億円)

	前回	今回	差異
上期	225	155	70
下期	225	195	30
合計	450	350	100



差異要因: 供給トラブルの沈静化、
 コークス・海上輸送運賃等の市況軟化、
 緊急対応コスト減少 他

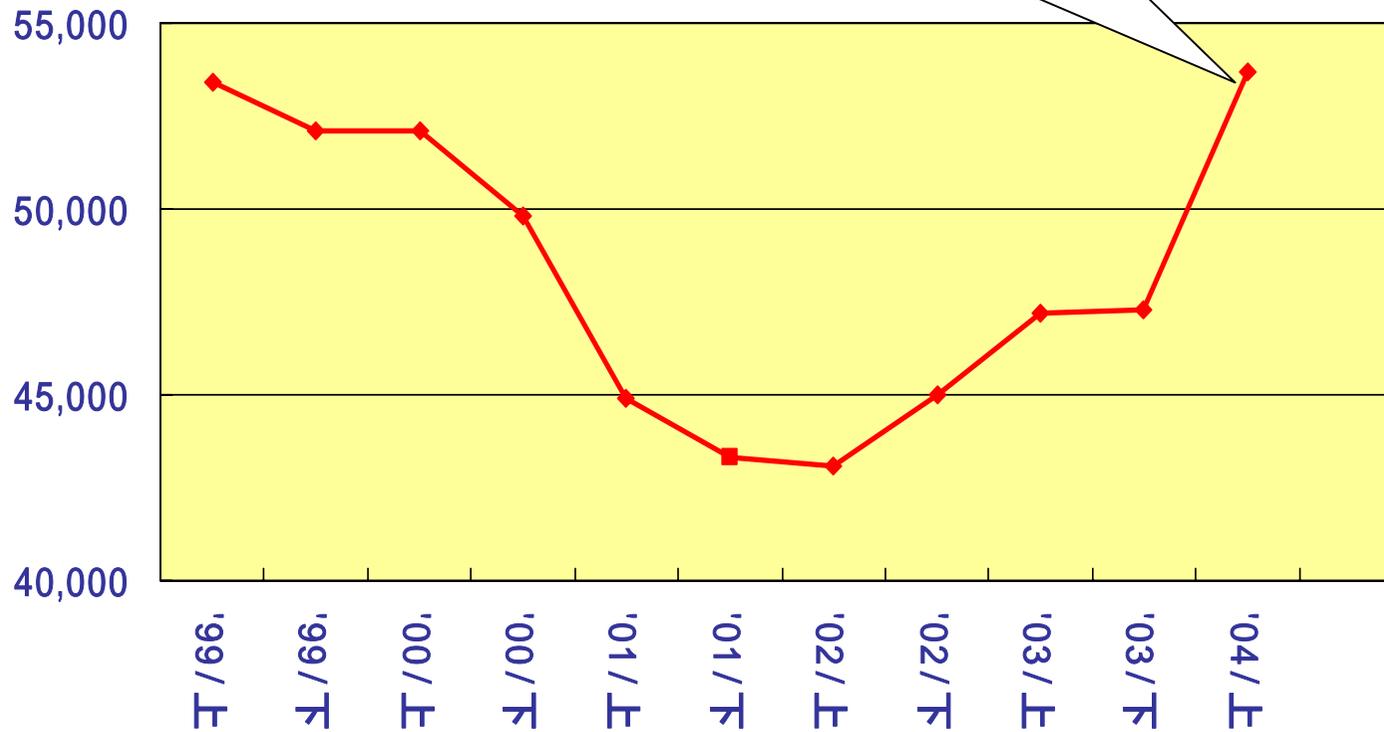


ECO WAY

鋼材単価の推移

(単位: 円/t)

対 '03下比 + 6,400円/t
(47,300円/t 53,700円/t)





ECOWAY

KOBELCO

原料価格の高騰について

(単位:億円)

【'03 '04】	前回	今回	差異
原料価格アップ	450	350	100
鋼材生産・出荷	390	580	190
差異	60	230	290

【'03/下 '04/上】	前回	今回	差異
原料価格アップ	200	140	60
鋼材生産・出荷	100	190	90
差異	100	50	150



セグメントの概況 【電力卸供給】

(単位:億円)

	2003年度 実績	2004年度		差異
		前回	今回	
売上高	301	600	600	0
営業利益	85	200	200	0

- ・2号機の営業運転開始。(4月1日)
- ・2基ともに、順調に操業を継続。



セグメントの概況 【アルミ・銅】

(単位:億円)
差異

	2003年度	2004年度		差異
	実績	前回	今回	
売上高	2,433	2,650	2,750	100
営業利益	149	160	170	10

- ・自動車向け、半導体・IT向け、缶材、銅管共に需要拡大。
- ・アルミのロールマージン上げが浸透。
- ・原油価格の高騰等によりコスト負担増。



ECOWAY

KOBELCO

需要動向と当社販売状況

摘 要	' 0 3 年度実績		' 0 4 年度見通し	
	上 期	年 度	上 期	年 度
軽圧品内需 (千トン)	1,195	2,387	1,232	2,448
アルミ板	694	1,371	708	1,399
アルミ押出	501	1,016	524	1,049
内 缶材 (千トン)	226	424	235	435
伸銅品内需 (千トン)	311	632	335	665
板 条	217	447	238	477
銅 管	94	185	97	188
エアコン内需 (万台)		670		714

< 当社の販売状況 >

アルミ圧延品国内 (千トン)	145	277	151	288
輸出 (千トン)	44	86	40	75
銅圧延品 (千トン) (銅管除く)	29	59	32	64



セグメントの概況 【機械】

(単位:億円)

	2003年度	2004年度		差異
	実績	前回	今回	
売上高	1,962	2,250	2,250	0
営業利益	14	60	60	0
受注高	1,840	2,120	2,380	260

(ハード系)圧縮機・タイヤ機械を中心に受注拡大。

(ソフト系)水処理・廃棄物処理等の受注環境は厳しいものの、ソリューション型ビジネスで収益確保。

(新鉄源)コムシグア社(還元鉄の製造・販売)が業績急回復。(持分)鉄源関連プラントの商談が活発化。



セグメントの概況 【建設機械】

(単位:億円)
差異

	2003年度	2004年度		差異
	実績	前回	今回	
売上高	1,839	2,150	2,100	50
営業利益	80	90	80	10

- ・中国は、政府の投資抑制策の影響により減産。
- ・中国での減益を、堅調なその他の地域でリカバーに努める。
- ・クレーン事業は、海外向けを中心に好調。



需要動向

(単位:台)

【ショベル需要】

	03年度実績		04年度見通し		04年度 見通し 前回
	上期	年度	上期	年度	
国内	10,248	22,615	12,284	24,582	24,500
中国	17,357	29,852	20,382	25,000 ~ 28,000	40,000



セグメントの概況 【電子材料その他】

	2003年度	2004年度		(単位:億円)
	実績	前回	今回	差異
売上高	452	470	490	20
営業利益	81	100	115	15

- ・液晶パネル配線膜用ターゲット材(コベルコ科研)が好調。
- ・医療材料事業は京セラ(株)と事業統合(2004.9.1)。

<社名;日本メディカルマテリアル(株)>



KOBELCO

< 2004年度上期業績見通し >



2004年度 上期業績見通し

(単位:億円)

	2003年度	2004年度上期見通し		
	上期実績	前回	今回	差異
売上高	5,870	6,500	6,900	400
営業利益	420	410	630	220
経常利益	175	180	370	190
特別損益	3	20	100	120
当期利益	89	100	110	10



上期)特別損益内訳

(単位:億円)

	2004年度上期見通し		
	前回	今回	差異
			-
退職給付過去勤務債務償却	35	35	0
投資有価証券売却益	30	30	0
退職給付会計変更時差異	65	65	0
固定資産減損処理	-	90	90
資産売却益 他	20	10	30
合 計	20	100	120



KOBELCO

<2004年度業績見通し>



2004年度 業績見通し

(単位:億円)

	2003年度	2004年度見通し		
	実績	前回	今回	差異
売上高	12,191	13,700	14,200	500
営業利益	1,006	1,130	1,450	320
経常利益	507	650	900	250
特別損益	150	20	100	80
当期利益	220	340	400	60



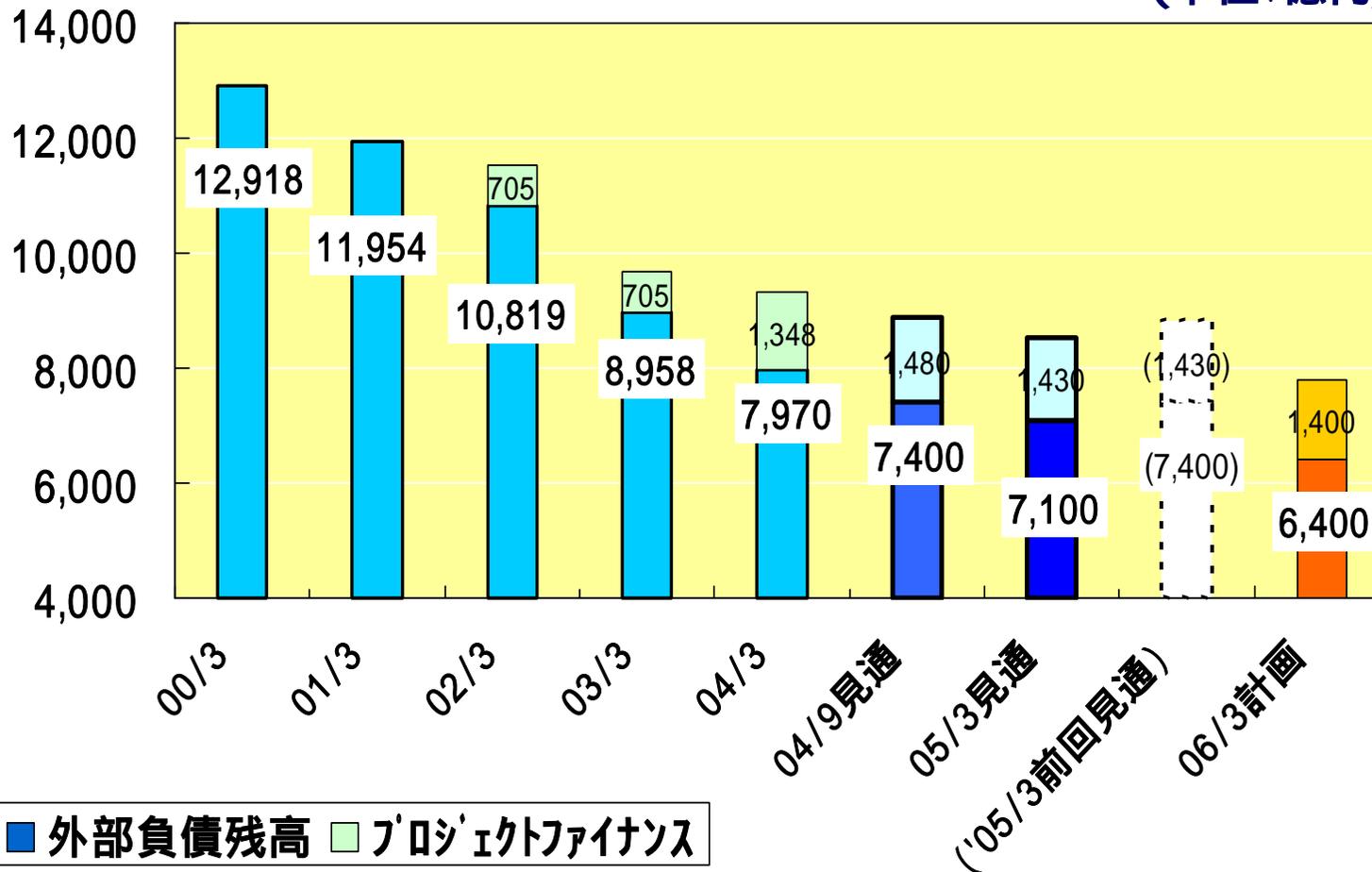
特別損益内訳

(単位:億円)

	前回	2004年度見通し			差異
		今回		年度	
		上期	下期		
退職給付過去勤務債務償却	70	35	35	70	0
投資有価証券売却益	30	30	-	30	0
退職給付会計変更時差異	130	65	65	130	0
固定資産減損処理	-	90	-	90	90
資産売却益 他	10	10	30	20	10
合 計	20	100	0	100	80

外部負債残高

(単位: 億円)





設備投資について

	完工時期	投資額
神戸/連続鑄造設備	'06年9月	85億円
神戸/第3高炉	'07年度中	今後検討
加古川/第2高炉	'07年3月	400億円

将来見通しに関する注意事項

- 本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまう可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。
- 上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいません。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。
 - 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
 - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - 為替相場の変動
 - 原材料の Availability や市況
 - 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
 - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化